

令和5年8月10日

各位

トモニホールディングスグループの令和6年3月期第1四半期決算概要について

トモニホールディングス（本社：香川県高松市、社長：中村 武）は、令和6年3月期第1四半期（令和5年4月1日～令和5年6月30日）連結業績等の概要と、当社グループの中核企業である徳島大正銀行（本店：徳島県徳島市、頭取：板東豊彦）及び香川銀行（本店：香川県高松市、頭取：山田径男）の単体業績等の概要について発表いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. トモニホールディングス

(1) 令和6年3月期第1四半期（令和5年4月1日～令和5年6月30日）連結業績

当第1四半期における損益状況は、経常収益は、貸出金利息及び有価証券利息配当金の増加により資金運用収益が増加したことに加え、役員取引等収益が増加したこと等により、前年同期比2,594百万円増加して20,377百万円となりました。経常費用は、国債等債券売却損が減少したものの、外貨調達に伴う外国為替売買損の増加によりその他業務費用が増加したこと等により、前年同期比1,640百万円増加して14,702百万円となりました。その結果、経常利益は、前年同期比954百万円増加して5,674百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比361百万円増加して3,648百万円となりました。

当第1四半期末における主要勘定残高の状況は、総資産残高は、前年度末比1,186億円増加して4兆6,699億円、純資産は、前年度末比59億円増加して2,532億円となりました。また、譲渡性預金を含む預金等残高は、前年度末比917億円増加して4兆2,385億円、貸出金残高は、前年度末比801億円増加して3兆4,754億円、有価証券残高は、前年度末比215億円増加して7,130億円となりました。

		令和6年3月期	
		第1四半期	前年同期比
損益	経常収益	20,377百万円	2,594百万円
	経常費用	14,702百万円	1,640百万円
	経常利益	5,674百万円	954百万円
	親会社株主に帰属する四半期純利益	3,648百万円	361百万円
		令和6年3月期	
		第1四半期末	前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	46,699億円	1,186億円
	純資産	2,532億円	59億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	42,385億円	917億円
	貸出金	34,754億円	801億円
	有価証券	7,130億円	215億円
	自己資本比率（国内基準）	8.76%	△0.10%

(2) 令和6年3月期（令和5年4月1日～令和6年3月31日）連結業績予想

令和5年5月15日に公表しております令和6年3月期第2四半期累計期間及び通期の連結業績予想（経常利益及び親会社株主に帰属する当期（中間）純利益）につきましては、修正ございません。

2. 徳島大正銀行

(1) 令和6年3月期第1四半期（令和5年4月1日～令和5年6月30日）単体業績

当第1四半期における損益状況は、経常収益は、貸出金利息、有価証券利息配当金及び役員取引等収益が増加したこと等により、前年同期比1,848百万円増加して11,492百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が増加したこと等により、前年同期比574百万円増加して8,041百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、経費が減少したこと等により、前年同期比697百万円増加して3,612百万円となりました。

経常利益は、有価証券関係損益が増加したこと等により、前年同期比900百万円増加して3,366百万円となり、四半期純利益は、前年同期比549百万円増加して2,414百万円となりました。

当第1四半期末における主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比470億円増加して2兆3,621億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比510億円増加して2兆4,870億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前年度末比377億円増加して1兆9,429億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は8.06%となりました。

金融再生法開示債権額は、前年度末比200百万円減少して37,780百万円、総与信に占める割合は1.91%となりました。

		令和6年3月期 第1四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	11,492百万円	1,848百万円
	コア業務粗利益	8,041百万円	574百万円
	コア業務純益	3,612百万円	697百万円
	経常利益	3,366百万円	900百万円
	四半期純利益	2,414百万円	549百万円
	本業利益（外貨調達コスト控除後）	2,169百万円	577百万円
	与信関連費用	234百万円	225百万円
		令和6年3月期 第1四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	25,384億円	396億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	23,621億円	470億円
	総預り資産	24,870億円	510億円
	貸出金	19,429億円	377億円
	有価証券	3,789億円	71億円
	自己資本比率（国内基準）	8.06%	△0.09%
不良債権	金融再生法開示債権額	37,780百万円	△200百万円
	総与信に占める割合	1.91%	△0.05%

3. 香川銀行

(1) 令和6年3月期第1四半期（令和5年4月1日～令和5年6月30日）単体業績

当第1四半期における損益状況は、経常収益は、貸出金利息及び役務取引等収益が増加したこと等により、前年同期比802百万円増加して7,742百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が増加したこと等により、前年同期比148百万円増加して6,141百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、経費が減少したこと等により、前年同期比245百万円増加して2,589百万円となりました。

経常利益は、株式関係損益が増加したこと等により、前年同期比285百万円増加して2,490百万円となり、四半期純利益は、前年同期比65百万円増加して1,489百万円となりました。

当第1四半期末における主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比445億円増加して1兆8,807億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比462億円増加して2兆212億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前年度末比426億円増加して1兆5,411億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は9.36%となりました。

金融再生法開示債権額は、前年度末比17百万円増加して28,160百万円、総与信に占める割合は1.78%となりました。

		令和6年3月期 第1四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	7,742百万円	802百万円
	コア業務粗利益	6,141百万円	148百万円
	コア業務純益	2,589百万円	245百万円
	経常利益	2,490百万円	285百万円
	四半期純利益	1,489百万円	65百万円
	本業利益（外貨調達コスト控除後）	1,776百万円	557百万円
	与信関連費用	32百万円	77百万円
		令和6年3月期 第1四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	21,268億円	788億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	18,807億円	445億円
	総預り資産	20,212億円	462億円
	貸出金	15,411億円	426億円
	有価証券	3,326億円	144億円
	自己資本比率（国内基準）	9.36%	△0.10%
不良債権	金融再生法開示債権額	28,160百万円	17百万円
	総与信に占める割合	1.78%	△0.05%

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

トモニホールディングス株式会社 経営企画部
株式会社徳島大正銀行 企画部
株式会社香川銀行 総合企画部

TEL：087-812-0102
TEL：088-656-1118
TEL：087-812-5132